

平成17年度試験研究成果書

区分	普及	題名	平成18年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤			
[要約 平成18年度の病害虫防除基準の改訂に伴い、新規に採用した殺虫剤と殺菌剤及び変更事項の概要を示した。]						
キーワード	病害虫防除基準	殺菌剤	殺虫剤	改訂事項	病害虫部 県北研究所	病理昆虫研究室 営農技術研究室

1 背景とねらい

平成18年度の防除基準作成会議に提案し新規に採用されることになった農薬および変更事項を紹介し、病害虫防除対策の資とする。

2 成果の内容

主な新規採用農薬および変更事項は以下のとおり。作物ごとの改訂事項は表1参照。

(1) 水稲

- ア カルプロパミド粒剤、ジクロシメット粒剤、フェノキサニル粒剤：MBI-D耐性いもち菌に対する使用上の留意事項を追加
- イ チアメトキサム・ピロキロン粒剤：既存の箱剤と同等の防除効果
- ウ クロチアニジン粒剤、ジノテフラン粒剤：アカスジカスミカメに有効
- エ エチプロール粉剤：アカスジカスミカメに有効な新規系統の剤

(2) 畑作

- ア テブコナゾール水和剤：無人ヘリによる小麦の赤かび病防除
- イ アゾキシストロピン水和剤：地上防除・無人ヘリでも使用可能な大豆の紫斑病防除剤
- ウ ベンフラカルブ粒剤：さといもで近年被害がみられているコガネムシ類の欄を新設

(3) 野菜

- ア ボスカリド水和剤：新規系統のきゅうり等の灰色かび病・菌核病防除剤
- イ アゾキシストロピン水和剤等：県内で被害が確認された、いちごの炭そ病の欄を新設
- ウ ノバルロン乳剤：キャベツのコナガ、ヨトウガ、アオムシの同時防除が可能なIGR剤
- エ ジノテフラン水溶剤：新規系統のキャベツ定植時のセルトレイ処理剤
- オ トルフェンピラド乳剤：新規系統のレタスのナモグリバエ、アブラムシ類防除剤
- カ スピノサド水和剤・アセタミプリド水溶剤：被害が増加しているアスパラガスのアザミウマ類の欄を新設

(4) 果樹

- ア エチプロール水和剤：りんごのアブラムシ類等の同時防除剤
- イ クロルフルアズロン水和剤、デブフェノジド水和剤、メトキシフェノジド水和剤：おうとうのハマキムシ類の欄を新設

(5) 花き

- ア ジノテフラン水溶剤：りんどうのアブラムシ類
- イ エトキサゾール水和剤：りんどうのハダニ類
- ウ クロルフェナピル水和剤：トルコギキョウでのINSVによるえそ斑紋病が県内で初確認されたため病害名を新設し、主な媒介昆虫であるミカンキイロアザミウマの防除剤を採用

(6) その他

農薬取締法改正により分離された作物（ミニトマト、とうがらし類、非結球レタス、ネクターリン等）に新たに適用拡大された農薬は原則的に採用した。

3 成果活用上の留意事項

改訂項目をもとに、地域の発生病害虫を把握し、防除計画の際の参考にする。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県下全域、生産者および普及センター、農協指導者等

(2) 期待する活用効果

新規薬剤の採用により、主要病害虫の防除の効率化が図られる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(402) 新農薬の効果検定と防除基準作成(昭和49年~)

6 参考資料・文献

7 試験成績の概要(具体的なデータ)

表1 平成18年度病害虫防除基準に採用した主な農薬

農薬名〔商品名〕	対象		使用方法	採用理由及び使用上の留意点
	作物名	病害虫名		
クロチアニジン粒剤〔ダントツ粒剤〕	水稲	カメムシ類	使用時期: 収穫14日前まで 使用方法: 3~4kg/10a	アカスジカスミカメに対する効果が高い。 防除時期は穂揃期~穂揃1週間後。但し、発生密度が高い圃場や水田雑草が多い圃場では使用しない。 ミツバチ注意。
ジノテフラン粒剤〔アルバリン・スタークル粒剤〕			使用時期: 収穫7日前まで 使用方法: 3kg/10a	
エチプロール粉剤〔キラップ粉剤DL〕			使用時期: 収穫14日前まで 使用方法: 3~4kg/10a	
テブコナゾール水和剤〔シルバキユアフロアブル〕	小麦	赤かび病	使用時期: 収穫14日前まで 使用方法: 16倍、0.8%/10a	無人ヘリ使用薬剤として採用。既採用剤とのローテーション散布が可能となる。
ボスカリド水和剤〔カンタストライフロアブル〕	きゅうり	灰色かび病、菌核病	使用時期: 収穫前日まで 使用方法: 1,500倍	新規系統の剤で、ローテーションに有効。
アゾキシストロピン水和剤〔アミスター20フロアブル〕	いちご	炭そ病	使用時期: 収穫前日まで 使用方法: 2,000倍	県内でも発生が確認された病害名を新設し、効果がある剤を採用。
ノバルロン乳剤〔カウンター乳剤〕	キャベツ	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	使用時期: 収穫7日前まで 使用方法: 2,000倍	既採用のIGR剤と同等の効果。 簡易で安価な定植時処理剤。
ジノテフラン水溶液剤〔スタークル・アルバリン顆粒水溶液剤〕		コナガ、アオムシ、アブラムシ類	使用時期: 定植時 使用方法: 100倍、500ml/セルトレイ	
トルフェンピラド乳剤〔ハチハチ乳剤〕	レタス	ナモグリバエ、アブラムシ類	使用時期: 収穫3日前まで 使用方法: 2,000倍	特に、ナモグリバエに効果が高く、既存剤とローテーションに有用。
スピノサド水和剤〔スピノエース顆粒水和剤〕	アスパラガス	アザミユマ類	使用時期: 収穫前日まで 使用方法: 5,000倍	近年被害が増加している害虫名を新設。ローテーションに有用。
アセタミプリド水溶液剤〔モスピラン水溶液剤〕		ネギアザミユマ	使用時期: 収穫前日まで 使用方法: 4,000倍	
エチプロール水和剤〔キラップフロアブル〕	りんご	アブラムシ類、キンモンホソガ、モモンカイガ	使用時期: 収穫21日前まで 使用方法: 2,000倍	新規系統の剤で、カメムシ類に対する効果も期待できる。
クロルフルアズロン水和剤〔アタプロンSC〕	おとう	ハマキムシ類	使用時期: 収穫14日前まで 使用方法: 4,000倍	現地で顕在化している害虫名を新設。効果が強く訪花昆虫にも影響が少ない。
デブフェバジド乳剤〔ロムダンフロアブル〕			使用時期: 収穫7日前まで 使用方法: 3,000倍	
トキシフェバジド水和剤〔ファルゴンフロアブル〕			使用時期: 収穫3日前まで 使用方法: 6,000倍	
エキサゾール水和剤〔パロックフロアブル〕	りんどう	ハダニ類	使用時期: 発生初期 使用方法: 2,000倍	ハダニ類に効果が高く、ローテーションに有用。薬害も認められない。
クロルフェナピル水和剤〔コテツフロアブル〕		ヨトウムシ類	使用時期: 発生初期 使用方法: 2,000倍	
ジノテフラン水溶液剤〔スタークル・アルバリン顆粒水溶液剤〕		アブラムシ類	使用時期: 発生初期 使用方法: 3,000倍	